

令和4年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和4年8月31日（水） 13時20分～15時10分
2. 会議場 松浦市役所 すこやか青プラザ3階 研修室1・2
3. 出席者

松浦市長	友田吉泰
松浦市教育委員会 教育長	黒川政信
松浦市教育委員会 教育委員	平原章宏、前田弘子、氏山智美
〔事務局〕 教育総務課	教育次長兼 課長 小熊盛、課長補佐 西岡智子
学校教育課	教育次長兼 課長 松本政美
生涯学習課	課長 中野正和
文化財課	課長 内野義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 総合教育会議について
 - (4) 協議
 - ①これからの時代に求められる「学力」について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	それでは、ただいまから令和4年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。なお運営要綱第3条に基づきまして、本会は成立いたしております。まず初めに友田市長が挨拶いたします。
市長	皆さん、こんにちは。本日は、令和4年度第1回松浦市総合教育会議を開催したところ、お忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。 今回のテーマを考えるときに、私も2期目のスタートということもありますので、ともだビジョンに示したことについて、皆様方と話ができればと思っているところでありまして、今日は「これからの時代に求められる『学力』について」ということをテーマに議論していただきたいと思っております。限られた時間でありまして、どうぞよろしくお願いいたします。
教育総務課長	ありがとうございました。続きまして、教育長から一言お願いいたします。
教育長	失礼いたします。教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。 本日は、本年度第1回目となる総合教育会議を開催していただき、誠にありがとうございます。今年の夏は、市内小中高校生の全国大会への出場が多く、松浦少年野球クラブや松浦高校なぎなた部など頑張りが見られ、嬉しく思ったところです。

	<p>新型コロナウイルス感染症は、7月からなかなか収まりが見られませんが、各団体とも感染予防を工夫徹底しながら、行事やイベントの開催を行っているところです。先日は7月22日から24日にかけて鷹島で行われた「わくわく!!水中考古学体験講座 in 鷹島」は全国から約30人の学生を中心にオンラインで受講しました。水中考古学の全国での広がりや気運の盛り上がりにつながる取り組みでした。</p> <p>さて、本日は、今、市長さんからもありましたが、「これからの時代に求められる学力」をテーマに意見交換をするようになっていきます。学力向上は本市の大きな課題となっており、市教委としましては学校への支援、指導を行っていますが、まだまだ改善には至っておりません。</p> <p>これまでの取組と課題を基に、今後の支援策を見出すことが出来ればと考えております。有意義な時間となりますよう、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>それでは次第に沿ってこれから協議に移らせていただきますが、議長は市長が務めるとなっておりますので、市長の方で進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>はい。それでは私の方で進めさせていただきます。まず、今回のテーマでございますけれど「これからの時代に求められる学力について」ということで皆様方と協議を行いたいと思っておりますが、昨年の暮れにそれぞれのご家庭にこの「ともだビジョン」をお送りさせていただきました。</p> <p>これに基づいて、今、私自身は政策を進めていますが、「総合計画」と連動性が必要だということで、総合計画に従って書いた訳でありますけれど、その中の「学び育てるまち」というのが総合計画にある訳です。</p> <p>その中で、2つ目にビジョンに書いていますが、「児童生徒の確かな学力の育成、ICTを活用した効果的な授業の実践、外国語教育の推進、学校・保護者・地域が協働して子供の成長を支えるコミュニティスクールの導入拡大、ふるさと教育の充実、松浦高校と連携した課題解決能力の育成を進めます。」ということでお知らせをしております。今日のレジュメの黒枠で示されているものですが、その中で、やはり「児童生徒の確かな学力の育成」をしなければいけないということ。当時、私が非常に気になっていました。</p> <p>今日のレジュメ5ページに資料1として、諫早高校の堤校長先生の記事、これは長崎新聞に載ったものですが、実はこの方、私の娘の副担任でありまして以前から親しくしていた関係もあり、県教委にもいらっしゃったので県議時代も何度かご一緒したことがございます。この方が書かれている記事で「従来の詰め込み型や教師が教え込む教育ではなく、自分で考え、行動できる力、課題を見つけ出して解決する力を育てることが必要だと考える。探究活動への取り組みが進んでいる学校ではあるが、主体性を持って目的を自分でつくり、自走できる生徒を育てるためには、指導する職員の意識を高めることが大切。」まさに、この取り組みが松浦高校で行われている探求型の取り組みであるし、そういったことも県内の別の中高連携校においてもこんなことを言われている。という意味においては、今、一定恵まれた環境にあるのではないかと。その恵ま</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>れた環境を生かしきれているのかということ、あるいは、それを生かすためにはどの様に取り組めばいいのかということ、ぜひ、皆様方と一緒に考えたいなと思っているところでございます。</p> <p>実は、私、松浦高校のまつナビプロジェクト、皆様に昨年度の報告書が届いていると思いますが、このプロジェクトが学校だけでやっているわけではなくて、地域の様々な団体に関係者が連携して進めているということで、コンソーシアムとなっています。その中には、従来型の県教育委員会や県内の大学、商工会議所、そして市議会なども入って、いろいろなアドバイスをいただくわけですが、その座長を私務めておまして、これまで関わっている中で、生徒たちはいろいろな体験をして、子ども達が正に探求していく力を身に着けているんだなと実感しています。そして、以前、前田委員の方から、近年の子ども達の勉強の中身は、従来の私たちの習ってきたものではなくて、問題を読み解くそういった力がないとできない。正に課題を読み解く力がないといけないんですよ、というお話をいただきました。そういったことを考える時に、松浦高校との連携があって、子どもたちの将来の実現を図れるんじゃないか。言ってみれば、松浦市の教育が深まっていくのではないかとということがあって、皆様とお話がしたいと思ったところでございます。</p> <p>それでは、子どもたちの学力の点で、学校教育課の方から説明いただけますか。</p> <p>はい。「これからの時代に求められる学力」とは一体何なのか。私たちのイメージには「読み書きそろばん」というのが基本にあるのですが、時代の流れとともに、学力というものが変わってきているというところの認識を、共通理解しておかなければいけないのかな、というところでございます。</p> <p>お手元資料の3ページ、新学習指導要領の下での学習評価の意義育成を目指す資質・能力の三つの柱。3つあります。</p> <p>1つ目 学びに向かう力、人間性等 具体的には「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。」</p> <p>2つ目 知識及び技能 具体的には「何を理解しているか。何ができるか」</p> <p>3つ目 理解していること・できることをどう使うか 具体的には「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>この3つの資質能力を学校教育法第30条第2項の中で、次の様にお示ししています。</p> <p>「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基本的な知識及び技能を習得させるとともに、」昔はこれでよかったんです。知識、技能を習得するだけで。しかし、これからの時代は「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と学力の定義がここでなされている訳でございます。</p> <p>その経過ですが、資料6ページの1番に今説明したことが記載してありますが、この大元は「生きる力」をつけることです。生きる力の中の学力を3つの資質能力で説明してあるということでもあります。</p>
---------------	--

6 ページ 2 番に、学習指導要領・中教審答申のキーワードがあり、学習指導要領の前文の記載がありますが、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」。

これは、日本人というよりも、グローバルな世界の中で活躍する日本人、これをイメージしてあります。今までの知識、技能だけではなく、こういう視点を持った人間、学力を備えておかなければいけません、という背景があります。それは、なぜかというところ、これから予測困難な時代に入るからであります。予測困難な時代の中で、主体的に課題を見つけて、それにどう取り組んで解決に向かっていくのか。そういう人間を育てていかなければならない、ということになります。

7 ページに「令和 4 年度学校教育課 重点目標」にもそういうことで、重点目標 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現による児童生徒の学力の向上ということで、授業改善をやっているんですが、なかなか進まない状況であります。

結果として、資料 4 ページに令和 3 年度までの全国学力・学習状況調査結果概況を載せております。全国には届いていないんですが、小学校の国語は全国に追いついてきている。算数、中学校の国語、数学はまだまだ平均を下回ってますよ、というところ。簡単に言うと、中学校の国語は全国平均並みです。あとは、全国平均を下回っております。時期を見て、市報松浦にも掲載することとなっております。平均ですので、実際のところ、学年によって正答率は変わります。

その正答率と言っている問題はどんな問題なのかというところを見ていただきます。資料 9 ページに過去の学力調査の問題があります。上段が令和 3 年度の小学校算数。「日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること（地域めぐり）」つまり、地域めぐりをしている子は、より点数を取れるという感じの中身なんです。その下、令和 3 年度中学校の国語。「話し合いをする（地域清掃活動）」。地域清掃活動をしたことがある子どもは、問題のイメージが捉えやすいということになります。ということは、単なる机上で勉強するだけでは、これからの時代はだめだよということを言っているんですね。

別冊で令和 4 年度の問題がありますので見ていただきますと、小学校算数 1 2 ページ 3、どこにも式や計算が書いてないんです。問われてないんです。話し合いが書かれていて、表が書かれています。読み進んでいって最終的にどれかを選ぶという、これが算数の問題なんです。ですから、今までの様な読み書きが、計算がという時代とは明らかに違うということがお分かりになるのかなと思います。ちなみに 3 番の答えは、

(3) 縄とびを選ぶ子が正解なんです。小学校算数 1 7 ページの問題ですが、「交流会の遊びの決め方として別の意見が出ました。」これに対して、自分の考え方を答えなければならぬんです。問題を言うと「1 年生と 6 年生のそれぞれのポイント数を求め方が分かるようにして、各年度のポイント数の求め方を式や言葉を使って書きましよう。」考えを書かないといけないんですね。答えをみますと例ですが「かくれんぼを希望して

	<p>いる人数は1年生が14人、6年生が8人なので、かくれんぼのポイント数がこうなるので、180ポイントです。」と書かなければいけないんですね。こういう思考を論理的に説明できるようにならないといけない。これが、これから求められる学力であり思考力、判断力、表現力と言われるものになっています。</p> <p>今度は国語の問題を見ていただいてよろしいでしょうか。小学校国語の問題1。「岡さんの学級では、地域のためにできることについて話し合うことにしました。」という問題です。この学習のテーマをしたことがあるかどうかでずいぶん違ってきます。</p> <p>松浦高校は常にこれをやっていますけど、今の小学校、中学校もこういった活動を中心に学びを深めていくという「ふるさと学習」というのをやっています。今回の場合は、公園をきれいにすることというのが、述べられています。ベースにあるのは、地域のために出来ることについて、話し合いをすることの経験があるかないかということ。ここら辺のところを持ったうえで問題に取り組まないと、この問題のイメージができない、という形になってまいります。</p> <p>最終的に、小学校国語の5ページになりますが、条件作文と言われる、非常に点数が下がるところで、松浦市の最も課題と言われているます目を埋めて意見を述べるという、このところがなかなか点数が伸びないということで、今鍛えているところですが。ゴミ拾いか花植えどちらかをまず選んで、その問題点での解決方法を自分で考えて書きなさいということころです。ただ読むだけではだめなんです。読んで、自分で選んで考えたことを書かなければならない、という問題なんですね。</p> <p>つまり国語の問題でも、単に読み取りをするという問題でなくて、自分の考えを持ってしっかりと表現するということが求められている。</p> <p>十分には、なかなか伝わりにくいんだと思いますけど、これから求められる学力のイメージというものを持っていただける。そういう意味での全国平均との比較ということでございます。以上がこれから求められる学力についての説明でございました。以上です。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。いかがでしたでしょうか。私も、実際に数問ですけども問題を解いてみて、先程、松本課長がおっしゃったとおり、数式が無いというのは見てて思ったんですね。算数の問題は数式があってこれを解きなさい、文章があってもその中で公式を書いて答えを出していくという感じなんですけど、そうではない。まさに以前、前田委員がおっしゃった中身を十分読み解く力がないといけないということ。</p> <p>そういった中で、今、地域活動などをすることが、こういった問題を解く力につながるということでございますけども。委員の皆様から、そういった点も含めてそれぞれ学校等の問題のある中で、こういった学力を伸ばすうえでこういった点をもっと必要ではないかということがあれば、お示しいただければと思います。</p>
氏山委員	<p>まさに、経験がものを言うではないんですが、コロナ禍とってますが、いろいろな経験を子どもたちにさせなければいけないのかなと思います。</p>

<p>市長</p>	<p>ました。</p> <p>そうですね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>今、総合的な学習の時間での体験活動、例えばキャリア教育の一環で、松浦市の工業会があって、施設見学に行くとか、多方面に渡っての本物体験が増えてまいりました。非常にありがたいなと思っているところですが、まさしくそれを、学力の素材として学んでいく下地が松浦市には非常に恵まれているところが出てきているのは間違いないだろうと思います。</p>
<p>前田委員</p>	<p>松高の先生がインタビューに答えた記事を見たのですが、松浦は非常にリアルであるを書いてありました。ということは、より現実的。他の学校も同じ様な取り組みをしていると思いますが、こういうリアルなものがあるということが、松高の大きな特色の1つだと思います。そういう取り組みを、ふるさと学習であったり、小学校からの総合的な学習であったり、中学校、高校とつなげていって、課題解決学習方法を取り入れながらやっていくという事は、どんなことがあっても、世の中の価値が変わっても、それを課題として捉えて、そして自分で考えて、考えて解決していくような力になるのではなかろうか、と試みています。</p> <p>ですから、私はまつナビは、早くから知らなかったんですけど、それを聞いてから、本当にいい取り組みをされているなと思いました。市役所やいろいろな企業さんたちが一緒になって取り組みに入られたり、いろいろな方々が入って行って、話し合いをされたり、取り組みをされて積み上げている姿を見て、混沌とした世界に挑戦しているという、そんな感じを受けながら見えています。</p> <p>学校教育の中では、ふるさと学習はずいぶん前から言われていましたよね。ですけど、なかなか出来ずに、自分の授業でもしたいと思ってもなかなか出来ずに、どうやったら出来るのだからと考へたりしていましたが、それを作り上げるために大学の前に、高校の段階で早めに発表したりしている。そういう取り組みをされていて素晴らしいんじゃないかなと思います。</p> <p>最終的に高校生は進路選択になるので、就職の場合に松浦の企業に入るのに、まつナビ発表者から取りますとか、何かそういう風にしたら、また違うのかなと思ったりしています。課題解決学習を取り入れているのは、素晴らしいものだと感じています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>まつナビのことで、資料がありますのでご覧ください。この9ページに横置き表がありまして、構想の目的のところに、「コミュニケーション力」、「課題発見力・テーマ設定力」、「論理的思考力」というのがありまして、これがいわゆる資質能力といわれる部分です。今、授業の中で何をやるかという資質能力を高めるということをやっていると思います。松高が目指すのは、まずこの3つで、これは新たな学力の方向に合っている。これは、まさに大学が欲しいような資質能力なんです。この前の松高みらい教育懇話会の際にも、AO入試に強い子どもを育</p>

	<p>てます。そこを狙っています、ということをおっしゃっていました。確かにこの3つの力が付くと、非常にAO入試には役立つだろうなど私も思ったところでした。出来たら、資質能力については、小学校も中学校も同じ様に進めているところもございますので、学び合いたいということも思っているところがございます。非常にまつナビは斬新な取り組みだと私は思っています。</p>
市長	<p>平原委員、いかがでしょうか。</p>
平原委員	<p>知識も必要でしょうが、今の時代、家に帰って少しお手伝いをしてという部分も無いような状況です。実際、親が全部やってしまう。もっと身近なところで学んでいくというかな。「お花に水やっというて。」とかそういう事からしないとだめなんじゃないかな。多分、子ども達も、現場の先生達も戸惑っているんじゃないかなと思うんですね。子ども達は今までこれできているんだろうと思うんですね。生きる力とかコミュニケーションとか、これを見せられて、さあと言われても。もう少し地道にしていかないと子どもがついていけない気がしています。探究する力は、もう少し後でもいいから、もっと小さいころから人と接して生きる力をつける。あたりまえにやるところがないけん、勉強するために、勉強しているという所があるように感じます。</p>
前田委員	<p>私の子どもが大きくなっていますが、今おっしゃった様にほとんどお手伝いをしていない。家庭の一員として何もしてなくて、早く起きなさい、早く何何しなさいってばかりで、ぜんぜんしてないです。今になってあれさせとけば良かったとか、一緒に話し合いをさせればよかったとか、お金の問題にしる、何の問題にしる、家のことに関して、一緒に話をしながらさせればよかったなと思います。隣近所の方たちが、どうされているかということも知らない。だから、もっと家での手伝いとか隣近所の回覧持って行ったり、一緒に草刈りをするとか。30年前くらいはあったんですけど、子ども達を育てる時には無くなりつつあっているなあとということ。本当に身近なことからすることはいいことだと思いますし、やはり知識、技能の部分もおろそかにしてはいけません。1+1=2というのも大事にしていけないとその後のコミュニケーション能力だとか表現力だとか考える力があるので、そこもまた大事にしないとイケないんじゃないかな。</p> <p>小学校の教育でしっかり知識、技能を身につけさせて、小学校の高学年くらいから総合的な学習をする。中学校、高校でまとめていって、大学ではちょっと遅い部分もあるんじゃないかな。頭が固くなっていて、高校くらいが一番いいんじゃないかなと思います。そういう流れが、私はいいいんじゃないかなと思ってみたりしています。</p> <p>国語の問題でも、以前は1番目には、小説だったり、説明文だったり、後ろの方に話し合い活動が少しあったのが今までの学力検査でしたが、ぜんぜん違って、中にグラフがあったり、メモがあったり、分析をしていかないと分からない様な学力検査だったり、これが世界的に求められるんですね。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>はい。おそらく今、知識、技能をしっかりと身に着けて、そのうえで活用する力というようなことですが、おかげ様で本市は、松浦市学力調査というものをさせていただいております。2年生から6年生までですね。実はこれを基本的な知識、技能を中心とした学力の度合いと見ています。おかげ様で全国の標準で、市の学力調査ではしっかりとやらせていただいております。</p> <p>県の学力調査を小学校5年生、中学校2年生を対象にしております。これが、知識、技能が半分、思考力、判断力、表現力が半分。いわゆる全国と市の学力調査をミックスした様な問題なんです。知識、技能では松浦市は県と十分戦えております。ところが、やはり思考力、判断力、表現力で負けているという実態があります。全国学力調査の、思考力、判断力、表現力を求められる様なこの問題では、なかなか手こずっている。でも、学校によっては、この問題にしっかり対応できている学校があります。体験活動を地域一体となってやっている学校は強いです。それは言っています。また、家庭との連携も関係があるというのが、調査の結果であり、課題です。以上です。</p>
<p>平原委員</p>	<p>極端な言い方をすると、今、子どもさんが少ないから、小学校1、2年で知識、技能を置いて、子ども達が集まって遊ぶ、というそれくらいでもいいと思うんです。そこで、コミュニケーション能力を培ったり、いろいろな考え方を経験として覚えていく。知識、技能は先程言われた$1 + 1 = 2$というのは、覚えるだけの話なので。実生活の中での経験で、こういうこと言ったら傷つくんだとか。それが家に帰ったら無いので、全く無いので、もう少しこれはこうだよというのが、あってもいいかなと思います。同学年での交流とか、また6年生と1年生では学年も歳も違うから、お兄ちゃん、お姉ちゃんとの交流とか、そういうゆとりを持って子ども達を生活させないといけない。中学校、高校になったら、知識、技能で学ばばいいのであって、もっと人として。小学校1年生なら遊びっぱなしでいいとならないかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>子ども達の体験ですね。やはり、そういう機会が減っているのは事実だと思います。例えば、地域の活動に子ども達を巻き込んでやっているかということ、私の地域でも入らないですね。高校生すら入らないし、最初から高校生を入れようと考えてもいない。大人が考えていないのに、子ども達に活動をやりなさいといたり、学校現場にそれを任せてしまうと、多分手に負えないんだろうな。先進地で私が見習いたいなと思ったのが、それぞれ小学校区ごとに住民主体による町づくりが行われていて、その中で地域の皆さんと一緒に子ども達が活動している訳ですね。その活動がまさに今回の学力に出ている地域活動になっている訳ですね。そういうのは、教育委員会とか行政がとかが供給する側ではなくて、地域で作っている社会を早く作っていかないといけないんだろうなと思うんです。</p> <p>松浦市でも今、みらい会議を各地域で行っていますけど、先進地では、みらい会議と同じ様な地域のことを考える場に、中学生が入っているんですね。壱岐市に先日行きましたけど、壱岐市全体を考える会議をやっ</p>

教育長	<p>ていて、そこに高校生が200人くらい入っている。凄いですよ。なぜそんなことができるのか。壱岐には4町あって、それぞれの町ごとにやらないんですかと尋ねたら、島だからそれぞれの町のことを考えるというよりも、この島をどうしようという考えでみんなの意識がまとまるんですね。</p> <p>これね、福島、鷹島だったらやれるんでしょうけど、松浦地域で松浦のこと考えようといったときに、大人がそうになっていないのでなかなか上手くいかない。でも、ここは子ども達にも自分が暮らしている地域のことを考える場、大人がちゃんとそれをやってみせる姿、こういうのが必要なんだろうなということを、改めて感じていまして、もうちょっとやらなければならないし、限られた行政のマンパワーではできないので、外部人材も活用していかなければいけないなと思いました。</p> <p>全国学力調査でも、今日松本課長から紹介があった様に、こういった経験をしていると理解しやすいとか、そういうことは地域の大人も分かっているならば、子ども達にもっと経験をさせようとか、そういう思いが強まるんじゃないかなと思いますね。</p> <p>そういった面で、先程知識、技能はできている、ただ、思考力などがまだまだ課題だといったことに、大人たちが環境を作ってあげないといけないんじゃないかなと思います。そういった面で、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>今福の仏坂地区ですが、9月4日に廃品回収があるんですが、昔は子ども達がリヤカーとかで回っていたんですが、今は、ご家庭にあるもので、前日に運んでいただける方は車で運んでください、といった感じなんですよね。何時には取りに行きますという感じで。廃品回収は瓶が1本5円で何本でいくら集まったとか、子ども達にとっていい教材なんですけど、この頃は無くなっている。少子化もあり、コロナ禍もあり。子ども達をもっと働かせればいいのになど、いい機会なのだと思います。昨年、私から今福小学校の子ども達が、「お前たちがせんか。」って言われて。親が全部やってしまう。</p> <p>それから、体験活動とか遊びとか、今学校も時間がぎっちり、見直しましようとなると、例えばクリーン作戦とかはコロナ禍だから今年度はやめましようかという対象になってきています。なかなかはがゆい面があります。</p> <p>学力的なことも、やはり思考力、判断力、表現力の問題に対応する基礎基本とか、そこが無いとどうもならんとですよね。ですから、そっちにずっと力を入れてやっていたんですが、世界的なPISAとかの調査で日本の子ども達がとかなると、こちらの方向になっている。私達もジレンマがあります。やはり、基礎基本、漢字とか知っていないと駄目だし、計算の仕方も知らない駄目だし、とってそれだけやっていたんでは全国の問題には通用しないし、授業改善と先程課長も言っていました、しきりに言っていますけど、スパーンとそこにシフトがまだ行っていないなど。</p> <p>まっナビもそうですけど、課題解決となると、課題を設定しきらばいけないものですから、子どもの頃から深く、なぜとか、どうしてとか</p>
-----	--

	<p>を個人レベルでも、グループでもいいですから、小学生の頃から疑問を持ったことについて、調べてみようとかそういった教育活動ができればいいとか、時間が取れたらいいなとよく思っているところです。</p> <p>そうですね。多分これを深堀していくと、どんどん入っていくんですけど、これから求められる学力というと、先程、松本課長が言われた読み書きそろばんイコール学力だと思込んでいるんですよ。だから、どうしてもそういった勉強、例えば夏期講習などずいぶん夏休中テレビで見ましたけれど、夏期講習ってまさに読み書きそろばんですよ。それをどんどんやれやれって、マスコミがコマーシャルなどであおっている訳ですよ。</p> <p>でも、それだけやっても、点数が取れないという現実をどこまで大人が分かってくかということと、後のテーマにつながっていきますけれども、松高のまつナビの取り組みが先進的に凄いとされているにも拘らず、松高の新しい希望者がなかなか苦戦しているんですね。</p> <p>だから、今、まさに小学生、中学生の子ども達も保護者の皆さんも課題解決能力や探求が求められる、ということをご存じじゃないのかなと思います。せっかくそういう場があるのですから、まつナビでも言われるのは、高校生が中学校に行き、自分たちがやっていることを教える。中学生が松浦高校の生徒たちに先輩の凄さを知る。同じように、松高の生徒たちも大学生が松高に来て、大学で学んでいることを見て、自分たちがやっていることが大学につながるんだということを感じていく。</p> <p>その辺をどうやって今、松浦高校が取り組んでいる姿をいかに市民の皆さんに伝えるか。そして、それがまさにこれから求められる学力につながるのかということですかね。どんなふうによれば、うまく回り出すのか、というところが大きな課題だなと思っています。</p> <p>テーマが少しずつずれていきますけど、この辺りで何かありませんか。</p>
<p>前田委員</p>	<p>松高の生徒が各中学校に行きまつナビの成果を感じるというのも一つですけど、逆に総合的な学習の時間に、松浦高校が一生懸命グループでやっているところに、全部松浦の中学生が行く訳にはいきませんので、いくつか、今日はここの中学校が希望しているから3年生が見学に行くとか、反対に中学校から松高に行き総合的な学習の中に入って自分が聞いてみたい、見てみたい所に入って行って学習をするというのはどうかな。逆のやり方もしていったら、どうだろうかと思います。オープンスクールがコロナ禍で無くなったりしていますが、子ども達も希望していたのなら、逆に8月25日から始業式が始まったので、午前中だけ授業だったら、午後そういう時間を設けて、3年生では遅いので、2年生が行きコミュニケーションを取るなど、やり方もあるんじゃないかなと思っています。</p> <p>それから、藤田さんがおっしゃっていましたが、まつナビは松浦のこと、ではなくて、松浦地区の子ども達にはそれはいいかもしれないけど、他の地域に松高に来てもらおうと思うんだしたら、松浦のことがまつナビじゃないかというふうにとられやすいので、一般化、普遍化する。松浦、松高でやっているこの活動が、自分たちの地域でも日本でもつなが</p>

	<p>って考えていくことが出来るという普遍的な部分もあるということを説明会でもししていけば、周辺のところとか、違う県でも生徒が来るかもしれないと思っています。</p> <p>先程、舟越校長先生の話があった様に、AO入試は本当に強くなるんだろうなと思うんですよ。最近、私もまつナビの授業に訪れたことがあるんですが、それぞれグループで課題設定をして、企業とか各団体へヒアリングに行く。フィールドワークに行くというときに、そのアポも全部、生徒達が取るんですね。教室でどうやってやるかというのを決めて電話のある職員室などに行って、電話するんですけど。子ども達にとってみればそういう企業に電話をしてアポを取るということは凄くハードルが高いことなんです。でもそれを高校2年生がやっているんですね。</p> <p>例えば高校時代に、私は進学しましたがけれど、同級生が就職するときに、面接先に電話してアポ取っている人はいないんですよ。求人票に書かれている所に、ここに行きたいと言って、先生が連絡してくれて、いついつ面接と言って、ある意味行くだけなんです。でも、まつナビはまさに自分達でやらなきゃいけない。進まないんですね。課題解決の第1歩。電話してアポを取るということは課題解決なんですよ。</p> <p>だからそういったことが、こんなふうに生かされるし、それが、こんなふうに評価されるということを、皆さんにもっともっと分かってもらうと、いい教育をしている場が身近にあるんですから、そういったところで生かされればいいなと思うし、当然、有名な大学に行こうとする時に、佐世保の普通科の高校に行ったりして、目指す方たくさんいらっしゃるんだけど、負担が大きいと思うんですね。私の息子もそうでしたが、3年間下宿しました。学校の近くにいるので、その分利便性は良かったかもしれないけど、その分ストレスも溜まっていたと思うし、例えば通っている子ども達は、往復の時間がかかりますよね。</p> <p>そういった所を他の分野に生かせれば、もっと可能性が広がるんじゃないかなと思うんですけど。そういったものを含めて、もっともっと地域の皆さんにこの探求学習の必要性や松浦高校の取り組みに対する理解が必要かなと思っています。氏山委員、いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>子ども達は将来自分がやりたい事、やってみたい事は自分の知っているものの中からしか選ばないと思うんですよ。だから、小中高、この子どもの時期にどれだけいろんな人に出会うかとか、いろんな事を見たり聞いたりするかが大事かなと思うので、そういう事ができる高校に魅力があるなとは思っています。それによって、将来の選択肢が増えるという事ですね。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>先程の舟越校長の話をもっと補足するならば、AO入試というのは、高校時代何をやってきたのかを面接で聞いてくるんですよ。そうすると、大学側は、非常にまつナビでやってきたことに興味関心が高くなるんですよ。そこを語れると、もの凄く面接官が食いついてくる。</p> <p>まつナビの取り組みそのものが、AO入試には強い。キラーコンテンツになっているんだろうし、もう一つ挙げるとするならば、AO入試だけじゃなくて、読み書きそろばん的なセンター入試的な部分でも実績を残すと</p>
	<p>学校教育課長</p>

<p>市長</p>	<p>いった両輪で絡めば更に松浦高校は魅力ある高校になるだろうという話がありました。</p> <p>今月初めに中学生の子ども議会がありまして、子ども達からいろいろな質問がありました。今日配布の市報にも書きましたけど、単純な質問じゃないんですよ。「これはどうなっていますか。」とか、「これはどうするんですか。」とかそういう質問ではないんですよ。政策提案をどんどんしてくるんですよ。</p> <p>松浦に今、松浦松之介というキャラクターがいるけど、新しいキャラクター作ったらどうですか、と行って実際に学校で作ってきてね、持ってきてね。そのクオリティが高いんですよ。ああいうのを、我々も提案を受けっぱなしではなくてそれを取り入れていくという姿勢が必要だなと思っていまして、子ども達が提案してくれたことが、なんとか実現できるように努力しないとイケないと思うんですけど。そういうものも、クラスで考えて、市に提案してこんな形になりましたというのは、探求とか実践につながっていくんだらうなと思うんですね。</p> <p>これまでのまつナビで大きな課題だったのが、提案で終わっているというのが非常に多かったんです。まつナビで提案されて、実現出来たものも、もちろんあるんですね。あるんだけど、限られていたんで、出来る限り、今、私が言っているのは、生徒たちが考えてこういうことが出来たらいいという、第1席に選ばれたものについては、実現できる様な取り組みが市としても必要なのではないかと。市に提案を頂くわけだから。その辺りを求めています。</p> <p>今年の3年生が2年生の時に提案をしてくれた中で、松浦鉄道で通っていて、松浦鉄道松浦駅で降りる時にスロープがありますよね。そのスロープをお年寄りが大変そうに上がって行く。ここに手すりがあった方がいいんじゃないかということから着想して、そこに手すりを作るべきだという彼らの課題を見つけたわけですよ。</p> <p>じゃあ、その手すりをどうすれば出来るんだらうと考える中で、稲沢鐵工さんをお願いしたらどうかということで、電話で稲沢鐵工さんをお願いしてみる。それが面白いんですよ。作ってくれませんかっお願いしている。お金も予算も何も考えていないんですよ。</p> <p>しかし、稲沢社長もまつナビのコンソーシアムのメンバーですから、そこは受け入れて頂いて、稲沢鐵工さんのご好意で出来たんですが。稲沢鐵工さんも単純に自分のところが作ってあげるのではだめなんで、作る過程も生徒たちに一緒にさせてあげたい、ということで、2年生で提案だったので、実際彼らは3年生になっているので、でもやるということで、取り組まれているんですね。</p> <p>そういう様に、これはまつナビの中で実現できましたというのを、どんどんピーアールしないとイケないと思いますし、いろんな所で私が言っているのは、ジョイフル松浦店でのみ松浦のアジフライを出していますが、ジョイフルは西日本地域では結構あるんですが、松浦だけなんです。松浦高校の今年20歳になった生徒たちが提案をしたものなんです。そういったものを、もっともっとやる。彼らが、その後、それをどう生かして、どういう活躍をしているのかということが分かると、課</p>
-----------	---

<p>学校教育課長</p>	<p>題解決をしていくということが必要だということ、それがどのように生かされていくのかということが、理解していただけるのかなと思います。</p> <p>「松浦高校と連携した課題解決能力の育成について」に入っていますけど、大丈夫ですか。「まつナビの成果発表」についてはどうですか。</p> <p>今、市長が言われたような発表されたこと、製品化されたことを PR することによって、松浦高校で学びたいという生徒の意欲につながるんじゃないかなという意味です。今おっしゃられたとおりです。意外と知らないんです。先生たちも知らない。その辺りの広報について、今大内先生が松高のコーディネーターになって PR されていますが、まつナビの成果で実現可能な学びが来ていますよ、というところを先生達も含めて保護者や子ども達につなげていくというのは、非常に必要なだろうなと思っているんです。それをアピールする手段っていうのが、連携するツールになるだろうと私は思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>そこは、やはり我々としてもプレスリリースをして、松浦高校の取り組みがこんな風になりましたというのを、マスコミに流すと、マスコミも面白がってやってくれると思うんですよね。先般、諫早で諫早市内の子供食堂の場所を諫早の女子高生達がイラストにしてマップを作りました、というのがニュースに載ってましたね。テレビのニュースにもなったし、新聞にも載ってました。ああいった広報は必要だなと思うんですね。</p>
<p>平原委員</p>	<p>市長が言われた様に3本柱のこことこの部分が欠けている。知識、技能は誰でもつくし、社会が求めているのは、大概持っている。真ん中（学びに向かう力、人間性等）と右下（思考力、判断力、表現力等）がつけられて、学力になる気がする。そういう意味では、松高のまつナビも非常に先進的で優れていると思います。極端に言えば、松浦の中学生が松高にしか行かんっていうようになれば、すごく良くなっていく気はするんですが、そのためにはどうすればいいと言われてれば考えてしまうんですけど。</p>
<p>前田委員</p>	<p>松高みらい教育懇話会に行くときに、職員室を通らなければいけなかったんですけど、通るときに先生方が「こんにちは。」「こんにちは。」って挨拶してくれて、すごく気持ちがよかったです。嬉しいなと思いましたし、まつナビをするために松浦を知らないといけないということで、いろいろなイベントにも松高の先生達に出させていただいて、松浦を知ろうとしていらっしゃるということもあって、開かれていっているなという風なことを感じました。</p> <p>先程の地域の作業等ですけど、以前はうちの近くも子ども達も一家総出で缶拾いだったり、この草をどこに持っていか地域全部でしていました。幼稚園など小さい子も缶拾いなどして分担して行っていたが、今はおっしゃった様に大人だけで早く終わろうとして、とっととして、何も何処にもつながらない。若い大人達も出てこられない。年取った人達でやっている状況になっているので、もう少し一緒にあって活</p>

<p>市長</p>	<p>動できる。運動会も福島は無くなったので、全体のそういう場も無くなったので、そういう場作りをしていって、その中でコミュニケーションを取りながら、いろいろなことが伝わっていったり、考えられたり、子どものことを見たりできればもっといいなと思っています。</p> <p>イベントが無くなったというのは、まさに中学生が子ども議会で提案したんです。だから、中学生はやりたいと思っているんですね。無くなってしまって寂しいと。必要なんじゃないかと中学生が提案するんですよ。だから、中学生が主体となってそういう場を作ったらどうだという、そういった催し物が出来たらどうだという中学生の提案がありました。</p> <p>なかなか中学生だけでやるというのは、立ち上げるのは難しいので、まずはそれぞれの地域のお祭りに中学生が参加するというのをやったらどうでしょうか、という事をお伝えして答弁にしている訳ですね。</p> <p>例えば、福島だと福島ふるさと祭り、鷹島だとモンゴル祭り、松浦地域だと水軍まつり。こういった中で、中学生がブースを出して、何かをやるとかね。大人と一緒に実行委員会に入ってきて、彼らが言ったことには実行委員会に関わることでいろんな人達とコミュニケーションが取れる。いろんなことを学べるというんですね。正に私たちが子ども達に経験させていかなければいけないと言っていることを、中学生が子ども議会で提案している。だから、子ども達が求めている。そういった所にしっかり応えていくということが大切かなと思ったところですね。</p> <p>なかなか結論が出ないですね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>学力の話から松浦高校との取り組みから、どのように学力を考えていけば良いのかという私のイメージどおりに今日進んでいます。確かに、子ども達が学校の中で必要な学びをして、資質能力を高めて、生きる力を身につけていっていると確信はしています。</p> <p>ただ、受け皿となる道筋として、例えば地域であればお祭りがあったり、体験のフィールドがあったり、進学先である松浦高校がある。その辺が実は情報としてきちっと子ども達に、保護者に伝えきれていないものがたくさんあるというのが、実感としてあります。</p> <p>もし、それがきちっとした目標として定まれば、人間はその目標に向かって努力するんですよ。そこに向かって活躍しようとするんですね。その辺のところ、実は学びに向かわせる原動力になるのであれば、連携を強めたりすることが出来ればいいなと個人的には思っています。</p> <p>実は先程、3つの柱のこのところが弱いということをおっしゃいましたが、まさしくこの「学びに向かう力」です。実は、松浦市が弱いところは。簡単に言うと、家庭学習の時間。読書の時間。</p> <p>結局、学びに向かうというのは、何で学ぶのかというと、子ども達は、自分の知りたい事とかやりたい事とか、その目標があれば、そこに向かって学びに向かおうとするんですね。そこを提供できるということが、私たち行政がやらなければいけないことではあるんですけど、保護者にも働きかけたり、地域にも働きかけたり、あるいは高校とも連携を強めたりする。そこに、学びに向かう力を強化する一つの方策が見えてくるんじゃないかなと話を聞いていて思ったところだったんです。</p>

	<p>データの的にも、読書であれば家庭にたくさん本がある家は、学力が高い。当然ながらですね。もっと言えば、家庭学習で、2時間やっているところは学力が高い。当然ですが、そこら辺の弱い学校がいくつかあります。やはりそこが課題になります。目標の定め方がまずいなという学校があります。そこには、何か学校が目指す子ども像のイメージがまだ出来ていないのかなとか、地域で活躍する場が少ないのかなというのも原因です。そういったところを含めて考えると、これからいかに目標とか連携とか強めるかということが、「これからの時代に求められる学力」、「学びに向かう力」を支える力になるんじゃないかなと思っているところです。</p>
市長	<p>ありがとうございます。正に子ども達にそういった場を与えていくというのは、本当に大切ですね。行政のやるいろんな会議の中に中学生をいれるのは、難しいですかね。</p>
学校教育課長	<p>そうですね。難しいと思ったら何も出来ないんですけど、何が出来るかという所で考えていかないといけないと思います。ただし、子ども達は、関わることにもの凄く興味を持っているのは間違いないです。自分達が何が出来るのかを試したい、という気持ちもあるんだろうなと思います。そこには、挑戦という言葉が出てくるのかもしれませんが。失敗してもよかけんやれ、といったところでしょうか。</p>
教育長	<p>この前のみらい会議の時、調川の子どもが参加してくれましたね。ああいった形で、中学生も来ていいよという形になれば、来る子はいると思うんですよね。親さんにも手を引いて連れて来てくださいと言えば、来られるかもしれませんし。</p> <p>今年初めて回らせて頂いて、最後に調川で高校生が来たので、新鮮な気持ちになったところでした。中学生も来てくれたらなど。それだけ時間はかかってしまうかもしれないんですけど。いい取り組みかなと思います。</p> <p>また一つ学びに向かう力の所で思うことが、先程課長も言いましたが、主体的に学ぶ態度、そういうのがどんどん出来て、家庭学習が出来ればいいんですが、自分を律する力というのが、学びに向かう力の一つにあるんですが、自分を律する力で今一番家庭で思うのは、やはりゲーム機が支配している。あとスマホ。それがどれだけ関わって学びに向かう時間を奪っているのかな。そこら辺がどがんかならんのかなと思います。ジレンマとしてあります。</p>
市長	<p>課題解決、それぞれの何かを調べるというツールとしては、我々が学生の頃には無かったもので凄いですよね。それをプラスに使いこなしてくれたら、環境は凄くいいと思うんですよね。</p> <p>今、すべての子ども達に学習用コンピューターが来ていますので、あれをどう活用するかということもあると思うんですよね。</p>
学校教育課長	<p>今一番使われているのは、AIドリルとあって、小学校1年生から中学</p>

	<p>校3年生までずっと系統的に学びが出来る AI ドリルを各学校導入しています。来年は市の予算で買ってくれと言われてましたが、そんなお金はありませんと言っていますが、今、保護者と学校で半々で買っています。何が凄いかと言うと、小学生でも中学生の問題に取り組んでいる子がたくさんいます。これを始めたのが6月、7月です。6月、7月でAIドリルで勉強する子が増えています。ところが夏休みに入ると、する子としない子の2極化に分かれている。今、教育長が言われた律する力、何のためにするのかということですね。</p> <p>今、AIドリルが一番使われております。2つ目が遠隔教育。コロナもあって、欠席連絡に使ったり、青島等は遠隔授業に使っています。使い勝手は別として、コミュニケーションツールとしてもかなり浸透してきています。これから望みたいのは、子どもが発表ツールの一つの手段として、活用してもらいたい。自分たちが調べたことを発表するとき、学習用コンピューターを片手にするという事を出来ればとなかなか難しいと思います。個人的には思っています。そういう状況です。</p>
教育長	<p>付け加えですが、学習用コンピューターですが、昨日たまたま鷹島の方に行ってきたんですが、小学校の古里校長と話した時に、一昨日、来週に迫ってきた修学旅行をどうするか、という保護者会をそれでしたそうなんです。6年生は全部持ち帰っていますから、それを親さんが使って。映りたくない親さんがほとんどなので、親さんは映らなくて、校長、教頭と担任だけ映るようにして。音は聞こえるということです。「そういう取り組みもしました。」と言われたので、「集まらんで良かったとね。」と言いましたら、「すぐ出来ました。」という事でした。それを見ていた子ども達は、今、課長が言った使い方が早く出来るようになるんじゃないかなと思います。</p> <p>いい方向に使えば、凄い武器だなと思います。</p>
前田委員	<p>そういうやり方で、プレゼンテーションが出来て、それは進学だけでなく、就職した後も、例えば5、6人のグループを組んでこれを起業しよう、これを提案しようというときに使えるし、本当に凄い武器になるんじゃないかなと思います。そのツールを使う時には、しゃべっている人以外は、しゃべれないんですよ。聞くことが大事になってきますよね。聞かないと分からないので、そういう利点もあるのかなと思います。</p>
学校教育課長	<p>操作方法は、いろいろあるんですよ。でも、そういうコミュニケーションツールとしての活用をごくごく当たり前の時代に、コロナのお陰でなってきたかなと思います。</p>
教育長	<p>私自体、今年2回リモート会議に出席して、緊張しましたけど。</p>
前田委員	<p>私もこの前生まれて初めてしました。</p>
市長	<p>本当にコロナウイルス感染症で随分苦しんでいますけど、コロナがあ</p>

	<p>ったからこそ、このGIGAスクール構想が一気に進んだし、1人1台の学習用端末が完備出来た訳ですね。だから、悪いことばかりじゃないというのは事実ですよ。だから、せっかく整備したので、子どもたちがもっと活用できるような環境、それを使って学びに向かう力をつけていくということですね。</p> <p>先程、早い段階で前田委員から松浦高校のまつナビで学んだ子ども達が松浦市内に就職してくれればという話があったんですけど、十八親和銀行に入った女性が松浦高校出身で、まつナビの取り組みが活かされていますよと新聞か何かに書かれていましたね。生涯学習課に入ってきた職員も松高出身ですね。彼女もまつナビのことを市の面接のときに話したと言っていましたね。</p> <p>そういった経験をしてきた人たちが、すでに社会に出てきて活躍しているの、そういった人たちがどんな風に活かされていますよという発信をしてもらうことも、すごく大事だなと思うんですよ。探究課題解決に取り組んで、それが今の仕事にこんな風に活かされていますよ。</p> <p>松浦高校の今年度のパンフレットは、大学生がコメントして書いています。だから、ああいったものが松浦高校からだけの発信ではなくて、もっと市民の皆さんに分かるような発信が必要かなと思いますね。</p> <p>松浦高校の生徒募集のためではなく、松浦高校が取り組んでいる探求学習が、どんな風に今求められて活かされているのかというのを、市民の皆さんが知るということを前提にですね。そうすると、自ずと松浦高校の取り組みにも興味を持っていただけるのかなと思うんですけどね。</p> <p>実際に氏山委員が、学校に入ってらっしゃるお子様がおられますが、今私が言ったような情報を提供した時に、一番子ども達が知るきっかけになる媒体って何なんでしょうね。</p>
氏山委員	<p>媒体としては、学校から配られる松高の「風薫る丘」で、子どもが持って帰って来るのでそれを見るのと、あとは御厨中学校にメディアのことで松高の生徒さんが来られて、堂々と司会進行も全部されていて良かったです。ただ、残念だったのが御厨中出身があまりいないもので、自分達の先輩だったらもっと良かったんですけど。なかなか松高に進学する子が少なくなっているもので、そこは残念だったんですが、松浦高校の生徒との関りはあります。</p>
市長	<p>中学校に配られているんですね。</p>
氏山委員	<p>毎回きます。</p>
市長	<p>それが、今から話し合う「市内小中学校と松浦高校の生徒同士の交流・連携」につながるんですけど。</p>
氏山委員	<p>保護者も松高の「風薫る丘」は見ています。</p>
前田委員	<p>回覧で回してもいいかもしれませんね。</p>

平原委員	<p>私から見ると、松浦市は最近よくメディアに登場しているようなイメージが結構あるんですけど。そういう風に情報を上手く発信したいんだけど、相手が何を見てるか、媒体が何というところですよ。市長はまだお若いけど、僕は、YouTube も面白いことすれば見るんでしょうけど。</p>
市長	<p>今、情報はあふれているんですけど、自分の興味のあることしか見ない。興味のあることに絞り込んでいく。新聞も同じなんですけど、新聞紙面も結果的には自分の興味のあるところを絞り込んで読んでいくんですけど、少なくともそこに大きな情報源があるんですよ。</p> <p>子ども達がどういう風に入っているのか。どこから入っているのか。我々例えばヤフーのトップページを見るとたくさん並んでいて、その中から自分の面白そうなところを選んでいきますよね。そんな見方をしているのか、それとも最初から検索してそのテーマから入っているのか。この辺りどうなんですかね。子ども達の情報へのアクセスは。</p>
氏山委員	<p>私もよく分からないんですけど、ティックトックで、勉強のやり方も流れています。娘が、携帯は持ってないんですが、古いものでカメラ機能があるもので、勉強する手元だけを撮るんですよ。それを2時間くらい集中してやっているんですね。その撮ったものをタイムラプスでしたら、2時間が早送りで30秒にまとまるんですね。それを見てやったという感じです。それもそういうのから流れてくるので自分で調べてやっている。いい方向に使えばいい。集中力が付くんです。最近やりだしました。私たちの勉強方法とは全く違います。</p>
市長	<p>子ども達の学力をどうしようと大人が議論しても分からないかもしれないですね。</p>
氏山委員	<p>それを否定せずに、「そういうやり方もあるんだね。」とやってやる気を出させる。頭から否定はしないですね。</p>
市長	<p>子ども達が、役所にも職場体験で来ましたよね。いろんな事を雑用なども含めてしてもらってるんですけど、あんな風に何かをやらせてもらうのではなくて、彼らが来た時に彼らにいろいろ聞いて何かをやる。3日間くらい来ますよね。役所の仕事を経験してもらう、役所をどんなものか知ってもらうよりも、彼らがせっかく来ているからどんな情報をどこから仕入れているかとかね、そんな風にこっちが彼らからどんどん吸収していく。それはだめですかね。子ども達の職場体験学習だから。</p>
学校教育課長	<p>職場の方とのコミュニケーションを取りながら、何かやったことが残せるのであれば、それは聞き出しても問題ないと思います。結局、今日こういうことをやりましたという報告書が彼らは書ければ最終的にはいい訳ですので。体験ですよ。</p>
平原委員	<p>一番手っ取り早いのが市報の関係ですね。編集とか構成とかあるいは</p>

	<p>記事の取材とか。そのことを含めて記載してあげて、どこの誰さんがということ。中学、高校、大学と当たり前のように行っているから、段々社会に近づき始めて、私は何をしようとか目標が見えてくるだろうと思います。中学、高校、大学生を積極的に受け入れて、そういう取り組みをやっているというのをPRするとか。</p>
教育長	<p>今おっしゃった様に、以前私も市報のある1ページを中高生に任せるとかそがんとどがんかなと思ったことがありました。企画から何から。ただ心配があるかなと思います。ただ、そうすると子ども達が市報に目を通すだろうと思います。なかなか、うちの子どもの市報毎月来ましたとって、見る事が無かったなと思うので、ある1ページだけでもすれば市報も手に取るんじゃないかなと思います。</p>
平原委員	<p>その時には、必ずこれをくつつける。社会に出れば、知識、技能では無いです。判断力とかコミュニケーション能力とかが必要です。中、高、大と子どもも親も学力、学力とっている気がします。卒業して、就職して、ああ違ったとかで辞めたりしている様な状況にあるような気がします。関係ない様な話になりましたが、まつナビプロジェクトはいい。せっかく始めておられるので、もっと知って欲しいんだけど、その手段ですよね。</p>
市長	<p>そうですね。手段ですね。先日、県の教育長とお話することがあって、その時に言われたのが、県の経営者協会の皆さんと県内就職が進むようをお願いしたいという話をされたときに、県の教育は学力の詰め込みに偏重してないかという指摘があったと。有名大学を出ていて、有名大学出身者を入れれば、活躍できるだろうと思って採用したら、ぜんぜんだめだと。そんなんじゃ、県の教育どうなっているんだとお叱りを受けた。結局、有名どころの大学を出たブランドで採るんでしょうね。頭はいいんでしょう。でも、社会に出たときに、社会でいろんな問題を解決出来るかということそうじゃなかったということで、結果的にそういった人が社会の中で思いどおりになっていない。だからこそ、松浦高校の取り組みの事をしっかりやらせて行くことが、これからの教育の役割かなとおっしゃったんですね。こういう情報をどう伝えていくかですね。</p>
文化財課長	<p>役所もいろいろな情報発信を文化財課も含めてフェイスブックやツイッターなどずいぶんやっているんですね。先般、わくわく!!水中考古学講座に大学生が来ましたが、あれは大学生限定だったんですか。</p>
市長	<p>大学生ですね。地元高校生とかでも面白いかもしれないですね。課題をどう伝えるかということ、せっかくいい取り組みがなされていてもどう伝えるかということになりますね。やはり子ども達に聞きたいな。どういう風に伝わってきたら興味があるのか。2学期、市役所に生徒たちは来ないんですかね。</p>

学校教育課長	聞かないと分からないですね。修学旅行に合わせて2年生の職場体験は行くんですよね。もしかすると、2学期に組んでいる学校もあるかもしれません。
市長	市のことをどうやって知っているのか。
学校教育課長	子ども会議に来たメンバーをもう1回集めましょうか。
平原委員	例えば市報に載せる記事なども、子ども達の希望を聞いたり、中高生にアイデアが無いとかか尋ねてみてもいいかもしれない。市報を見てもらうために。
市長	<p>今月号の市報もいいですよ。最近こだわってしまして、子ども達とかを中心に出来るだけいい写真をということで、今月の9月市報も子ども会議の議長が載っています。</p> <p>市内小中学校と松浦高校の交流は、先程、氏山委員からありましたけど、松本課長の方から松浦高校の取り組みを市内の学校現場もあまり伝わっていないよ、というのがあって、今回大内先生がコーディネーターでこの4月から入られて、その辺やられていると思うんですけど、学校と松浦高校の先生たちは、今後大内先生がおられることで広がるんだと思うんですが、生徒同士の接点はどうですかね。</p>
学校教育課長	<p>今、現在やられているのが、メディア指導員として高校生が中学生に指導するという場面があります。意図的に作ってもらっていて、ようこそ先輩の授業の一環でもあります。メディア指導員という立場で高校生が来ているんですけど、ようこそ先輩の授業などでそういう取り組みがあってもいいのかなと思います。高校生の立場で、今君たちに教えられるものを教えるという様な。</p> <p>実は、猶興館などは小学校辺りの母校に行って、教科指導する体験とかあるんですよ。ああいうのを膨らましてもいいのかなと個人的には思っています。先生達も忙しいので小さい先生達がたくさん来ると、非常に子ども達も学びに向かってくれますので、そういう取り組みも出来たらいいなと思います。</p>
市長	中学生の部活が、文科省で地域に任せるといっていますが、高校生が地元の中学校に行って、部活動を指導するというのは選択肢としてないんですかね。
学校教育課長	あると思います。一つは、どういう枠組みで地域移行していくのかという一つの選択肢として高校の部活動とのタイアップはあるだろうなと思います。
市長	<p>松浦市との連携となると部活の選択肢が限られてくるのかもしれないね。</p> <p>まつナビの発表会が年度末にあるんですけど、以前は市議会の議場で</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>やっていたんです。議場は特別の場所なので、生徒たちにぜひ体験させたいということで試されたんですが、議場だと入れる人達が限られているので、ぜひゆめホールでして下さいと言って、昨年からゆめホールになっています。今、コロナ禍なので、なかなか会場にいろんな人を入れられないという課題があるんですけど。ゆめホールでやれば、定員500人ですから、松浦高校プラス地域の皆さんにコロナ禍が収まれば、見ていただいて松浦高校のまつナビはどんなものか知ってもらう機会、出来ればそこに中学生が来てくれればいいのかと思いますし、最近動画で取ってそれを学校で発表するというようなことがあるんですけど、学校現場でそういったものが配られてきた時に、見る時間ってあるんですか。</p> <p>無いことは無いと思います。意図を持ってその動画を使うという事になると思うんですけど。一つのきっかけとして見せたりすることもありますし、ゴールの姿として見せることもありますので、それは、使い勝手だと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>この生徒同士の交流・連携については、我々行政、教育委員会が仕掛け、そういった場づくりが必要ですね。生徒たちの頑張りだとか、生徒たち自身がやっている事を伝える機会を設けたいですね。</p> <p>非常に今日のテーマは、ゴールの見えない難しいテーマを皆さんに投げ掛けた様な気がします。ただやはり今、松浦高校がやっている正に探求というものが、社会に求められているし、それが国が求めている学力に通じているんだということが、皆さんと共有できたという点で良かったなと思います。</p> <p>それでは、協議についてはこの辺りで留めたいと思いますが、よろしうございますか。ありがとうございました。</p> <p>それでは、その他に移らせていただきたいと思いますが、皆様から何かありませんか。</p> <p>無ければ事務局の方からお願いします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>たいへんお疲れ様でした。年に3回くらいで計画を立てさせていただいておりますが、1学期分が今の時期に開催ということで遅くなりましたが、スケジュールで言えば2学期、3学期に1回ずつ出来ればと思っております。教育委員の皆様からでも今後議論するテーマとして何かご提案があればお聞かせいただければなと思っております。また、市長と打ち合わせをする中で決めさせていただきたいと思っておりますけども、この場でもし何かあればお聞かせ下さい。</p>
<p>市長</p>	<p>一つ皆さんにご意見をお聞きしたいなと思っております。</p> <p>松浦市議会でも民間団体でも鷹島神崎遺跡についての関心が非常に高まっています。議会でも民間の13団体の方々が「松浦市歴史観光推進協議会」を立ち上げられました。文化財課が所管する課題ではあるんですが、文化財課での大きなトピックスとして10月1日、2日に礎を引き揚げるんですね。昨日のNHKの朝の番組、福岡放送局でも取り上げ</p>

<p>文化財課長</p>	<p>られていましたから、九州一円で取り上げられている。ちょうど2学期の後半、碇の引き上げ後の11月、12月ぐらいに第2回をやるときに、鷹島神崎遺跡の今後どうなっていくのか、松浦市がどんな事をしているのかということと、皆様にもご意見を賜る機会を設けられればなと思っ ているんですけど。課長、非常に忙しいと思うんですが、時期的に3学期がいいですか。11月、12月の時期に、地域計画への考え方とかそういうのは出来ますか。</p> <p>実は午前中に教育委員会の定例会がございまして、10月の開催時には碇が引き上がるので、鷹島でどうでしょうか、という話にはなりました。ただ、その時には実際に引き上げられて、展示をした状況での碇を見ていただいてこの取り組み状況の説明はできるのかなと思っていましたけど。具体的にこれをテーマに討議して頂くとすると、それを受けてという形でもいいんですかね。タイミング的には、一旦現場で実物を見てもらって、ちょうどいいんですかね。</p>
<p>市長</p>	<p>私がなぜそんなことを言うかと申しますと、議会も非常に意欲的です。そして、商工会議所をはじめ、いろんな団体の方々も代表者の方々が来られて形成されて、非常に意欲的です。ただ、市民の方との思いがどうなんだろうということがありまして、なかなか市民の皆さんとそういう議論をする機会が持てないものですから、教育委員会文化財課が取り組んでいて、教育委員の皆様ともそういった視点でお話が出来れば、我々が今後進めていく方向性と市民の皆様との意識の乖離がないようにしないといけないなど。議会も団体も非常に熱心なんだけど、そこと少なくとも教育委員の皆様との温度差はないのか、そこら辺りを我々も知っておかなければいけないと思うんですね。</p> <p>今後、9月議会の市政概況でもお伝えするんですが、交代された末松前文部科学大臣に要望に行ったんですね。そして、末松文部科学大臣からは、日本の水中考古学は遅れているので、前に進めたいというお話があったんです。日本の水中考古学を前に進めたいというときの一番先頭に立っているのは松浦ですから、当然松浦が進めていくんですよ。その辺りも含めて、教育委員の皆様にもお話をして、市長部局が進めていく地域経済活性化課が取り組んでいる観光部門に活かす上での考え方とか、皆様のご意見を反映させることができればなと思います。</p> <p>次回のテーマは、地域計画の考え方だとか、今後どうしていくかとか、そういうテーマでよろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>鷹島神崎遺跡を中心にとということですね。</p>
<p>市長</p>	<p>この間の3枚のポンチ絵とかを示しながら、実際に碇を10月に見ていただくのであれば、その活用策だとか、もっとこうすればいいのにと いう思いをご助言いただければと思います。</p>

教育長	11月ぐらいにですね。
文化財課長	そうですね。地域計画の今年度第1回目の会議も出来れば10月下旬から11月上旬に1回しようと思っているので、課題を整理した表が出来るのかなと思います。
市長	それでは、教育総務課と日程を調整して、それをテーマで今年中にやりたいと思います。
教育総務課長	事務局の方は以上でございます。ありがとうございました。
市長	<p>他は大丈夫ですか。</p> <p>皆様から何もなければ終了したいと思います。今日のテーマは幅広くて、どういう風な方策が出来れば解決できるかということは、難しかったのですが、改めて先程申し上げましたけど、今取り組んでいる方向性は必要なことであるということと、子ども達にどう情報を伝えていくか、子ども達にどう参加させるか、そういう場を設けるかが課題であるという事を再認識したところであります。本当に長時間にわたってご協議いただきましてありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。</p>